

【事例紹介】

スウェーデンにおける 高等教育のグローバル化と国際化政策

Globalization and Strategy for Internationalization of Higher Education in Sweden

神戸大学大学院国際協力研究科国際化加速プログラム学術研究員 **武 寛子**

TAKE Hiroko

(Graduate School of International Cooperation Studies, Kobe University)

キーワード：スウェーデン、大学の国際化政策、グローバル化

はじめに

高等教育市場が拡大し、国境を超えて多くの学生、研究者が移動する近年において、教育の質を保証し、大学が国際化をすすめることは喫緊の課題となっている。グローバル化によって迫られる大学教育への課題に対応するために、各国の大学は国際化のための政策、運営の実施が求められている。

スウェーデンもまた、大学の国際的な競争力を高めるため、教育の質を高めるために大学の国際化政策を掲げている。同国はヨーロッパのスカンジナビア諸島に位置し、人口約1,010万人（2018年1月現在）で構成される国である。国内には学士課程、修士課程、博士課程を提供する大学が32校あり、そのうち国立大学25校、私立大学7校が設置されている。2018年にTimes Higher Education社が発表した世界大学ランキングをみると、国内トップで世界38位を占めているのは、カロリンスカ研究所である。カロリンスカ研究所は2017年のランキングでは28位だったが10位も下がった。その背景には、研究者のスキャンダル、教育研究に関する評価が低下したことがあるという。次いで、ウプサラ大学（86位）、ルンド大学（93位）と続く。同国は、人口の規模や大学の数でいうとアメリカ合衆国やイギリスと比較しても小規模であるけれども、世界的に評価の高い高等教育を提供しているといえる。

本稿では、スウェーデンにおける高等教育のグローバル化について、同国の大学がいかに国際化を進めているのかを考察する。具体的には、同国における大学教育の国際化に関する戦略について検討する。第一章では、大学のグローバル化と国際化について定義する。この定義をもとに、スウェーデンにおける国際化がいかに進められているのかを考察する基軸とする。第二章では、スウェーデンの大学教育における国際化の状況について、スウェーデン統計庁による統計を用いて確認する。同国の受入れ及び送出し留学生の数の変遷、留学生の出身国などについて概説する。第三章では、スウェー

デン政府の調査委員会が新しく提唱している大学の国際化の戦略について取り上げ、いかに同国が国際化を展開しようとしているのかを考究する。最後に、スウェーデンの大学における国際化の取り組みの課題と展望について論じる。

1. 高等教育のグローバル化と国際化の定義

まず、高等教育のグローバル化について論じる前に、国際化とグローバル化について確認しておこう。国際化とは、国家を単位としており、複数の国家や主体によって構成される枠組を前提としている。一方のグローバル化とは、国家の枠組を超えた経済的、文化的、政治的な制度構築を展開することをいう。つまりある一国の高等教育のグローバル化を論じるとき、グローバル化によって展開される高等教育の制度的枠組に対して、国家としていかに他国の国家、大学、学生と共に、高等教育を展開していこうとしているのが焦点となる。グローバル化という現象に対応するために、大学はいかに国際化を促進しようとしているのだろうか。

具体的に大学の国際化とは何を指すのか。喜多村（1989）は、①大学の機能や水準が、その他の大学に対して普遍的なものとしての「通用性」があるか、②外国人研究者との交流や共同研究、留学生の受入や派遣について大学がいかにルールや制度において「交流性」があるか、③外国人を、対等な地位をもって同じ構成員として認める「開放性」があるか、という3つを日本の大学の「国際化」として位置づけている。

江淵（1997）は、大学の国際化とは留学生交流や学術交流を指すことが多いと指摘する。上述した世界大学ランキングの評価指標のひとつである国際性が、外国人教員比率と外国人学生比率で構成されていることから、外国の教員や学生との交流とその内容の充実は大学の国際化にとって重要な政策の一つだといえる。

Knight（2008）によると、「大学の国際化とは、大学教育の目的、機能（教育、研究、支援）、提供に国際的、異文化的、世界的な側面を統合するプロセス」だという。国際化政策には、①国際協力、②開発計画、③大学間協定やネットワーク、④教授プロセス、カリキュラム、研究に国際的異文化的側面をおく、⑤大学内における課外活動や部活動、⑥人材交流、フィールドワーク、サバティカル、コンサルタント業務を通じた研究者の移動、⑦留学生の受入、⑧学生の交換プログラムや学期ごとの留学、⑨ジョイント／ダブルディグリープログラム、⑩パートナーシップの構築、⑪大学の分校、などを含むという（Knight 2008）。続けて Knight の言葉を借りると、大学の国際化は、大学内における活動と、国境を越えた活動の両方を指している。

Maringe（2010）によると、国際化とは既存のカリキュラムに国際教育を取り入れる活動を指す。これには、教育の質を高めること、大学の起業家精神と管理主義を高めること、留学生の受入に特化すること、大学における教育研究のパートナーシップを展開することも含まれる。

つまり大学の国際化とは、教育制度に国際的な通用性をもたらすこと、海外の複数の大学とパートナーシップを構築し教員や学生の交流を促進すること、国際化を通じて教育研究を発展させることを指す。大学内に外国人の教員や学生の数だけを増やすのではなく、国際的な人材の交流により教育研究そのものを充実させる取り組みや制度を構築する過程である。

それでは、スウェーデンの大学教育の国際化について、留学生の受入れや送出しの数はどのように推移しているのだろうか。国際化の状況についてみてみよう。

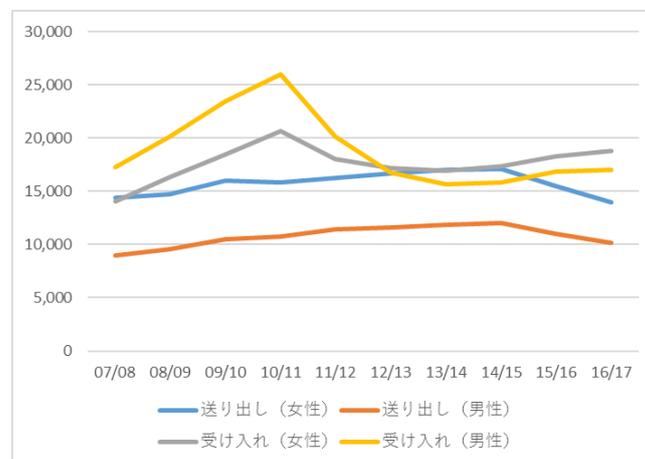
2. スウェーデンの大学教育の国際化における状況

同国へ留学したり、また同国から留学したりするには、様々な方法がある。大学が協定を締結している海外大学へ留学（もしくは、大学が協定を締結している海外大学から留学）したりする場合、EUが展開する留学プログラムに参加して留学する場合、これらの国家レベルまたは機関レベルで運用されている留学制度に依らないで、いわゆるフリームーバー（Freemover）といわれる個人で海外の大学へ（または海外の大学から）留学する場合がある。

2016年度にスウェーデンで学んでいる留学生は、35,900人である。そのうち、交換留学制度を通じて留学している人数は13,900人、フリームーバーの留学生は22,000人である。2007年度の統計と比較して、交換留学生は15%増加した。フリームーバーの留学生は13%増加した。留学生の性別をみると、2016年度、受入れ留学生の性別の割合は53%が女性で、47%が男性であった。送出し留学生の場合、58%が女性で42%が男性であった。送出し、受入れともに男性よりも女性の方が割合は高い。

図1をみると、受入れ留学生の数は2007年度から2010年度までの間で64%増加しており順調にその数が上昇していたのだが、2011年度以降に急降下していることがわかる。これは、無料であった大学の授業料が、2010年度から留学生に対して授業料を課すことになったことが背景にある。授業料無料の廃止は、大学の国際化に影響を与えたことが推察できる。

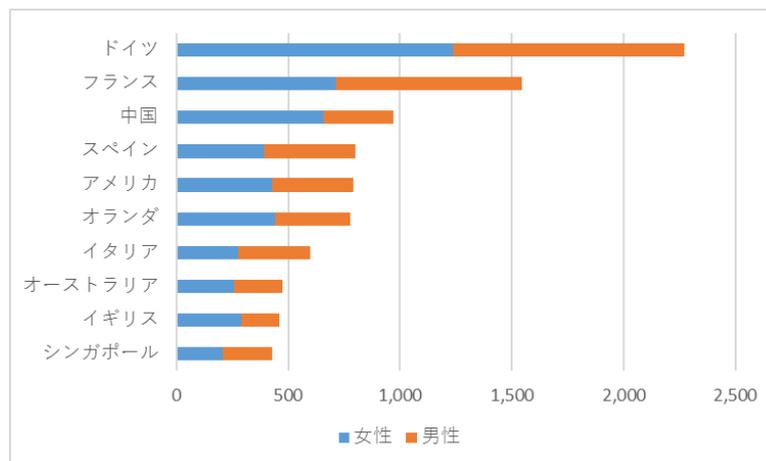
図1. 受入れ・送出し留学生の数



出典： Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17*.

次に、受入れ留学生の出身国について確認してみよう（図2）。最も多いのは、ドイツからの留学生である。2016年度の受入れ留学生のうち68%がヨーロッパから、6%が北欧諸国からであった。次にアジア16%、北アメリカ10%と続く。ドイツからは2,300人の留学生を受け入れている。次いでフランス、中国と続く。近年では中国やオランダからの留学生も増加している。

図2. 受入れ交換留学生の出身国（上位10か国）（2016/2017年度）



出典： Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17.*

表1. 受入れ交換留学生の出身国（上位10か国）

	受入れ交換留学生の数		
	合計	女性	男性
ドイツ	2,273	1,239	1,034
フランス	1,547	713	834
中国	970	656	314
スペイン	802	389	413
アメリカ	789	428	361
オランダ	777	441	336
イタリア	596	275	321
オーストラリア	473	260	213
イギリス	462	289	173
シンガポール	426	209	217

出典： Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17.*

フリームーバーの留学生数は増加しており、2016年度には、9,800人の新しいフリームーバー留学生のうち30%がヨーロッパから来た（表2）。ついでアジアからが25%であった。国別にみると、インド、フィンランド、中国からのフリームーバー留学生が多い。スウェーデン統計庁（2016）によると、前年と比較するとヨーロッパからのフリームーバー留学生は少し減っているものの、EU/EEA、スイスからのフリームーバー留学生は増加した。アジアやアフリカからの留学生は増えており、それぞ

れ 290 人、180 人の学生を受け入れている。北アメリカ、オセアニアもまた留学生が増えたが、まだ少ない人数である。南アメリカからの留学生は減っている。

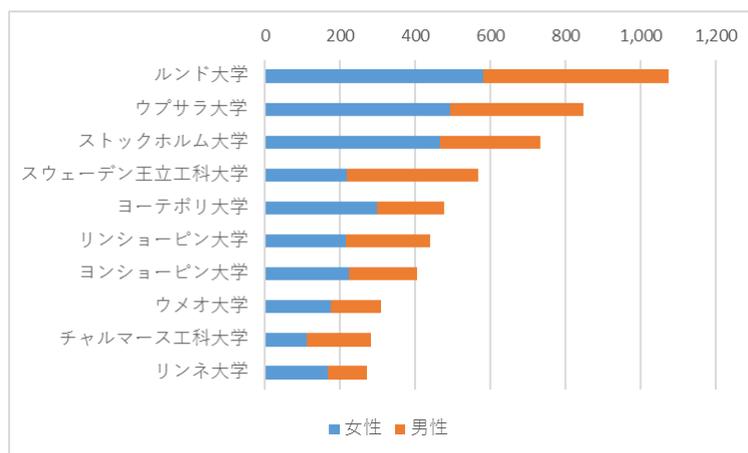
表 2. 2016 年度 フリームーバー留学生（受入れ）の出身国（上位 10 カ国）

	フリームーバーの数			フリームーバーの割合		
	合計	女性	男性	合計	女性	男性
合計	9840	4840	5000	100	100	100
インド	760	180	580	8	4	12
フィンランド	670	470	200	7	10	4
中国	620	340	280	6	7	6
ドイツ	480	260	220	5	5	4
パキスタン	260	70	200	3	1	4
バングラデシュ	190	40	140	2	1	3
イラン	170	80	80	2	2	2
イタリア	160	70	90	2	1	2
ギリシャ	160	70	90	2	1	2
アメリカ	160	80	70	2	2	1

出典： Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17.*

図 3 は、交換留学生を受け入れている大学の上位 10 校を示している。ルンド大学が最も多く留学生を受け入れており、次いでウプサラ大学、ストックホルム大学と続く。ウプサラ大学とルンド大学は世界大学ランキングでも上位 100 位以内に位置する大学であることから、外国人留学生の受入に関する国際性が高いことが窺える。

図 3. 2016 年度 大学における交換留学生数（受入れ）



出典： Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17.*

スウェーデンの大学における国際化の状況を見ると、送出し留学生より受入れ留学生が多いことがわかる。交換留学生とフリームーバー留学生では、出身国が異なることも確認した。送出し留学生の数は、2007 年度から 2014 年度までゆるやかに増加していたが、2015 年度以降その数は減少している。

受入れ留学生の数もまた、2007年度から2010年度までは順調に増加していたものの、授業料の有料化によって一時は急激に減少した。2014年度以降は、再びその数は増加している。

スウェーデン政府は2018年に大学の国際化に関する政策を提案している。次節では、大学の国際化政策についてどのような内容が提案されているのかについて整理する。

3. スウェーデンの大学教育の国際化政策

スウェーデン政府の調査委員会が2018年に提唱した大学の国際化政策では、スウェーデンの大学としての魅力を高めること、学生や教員の留学を促進することによって、教育研究に国際的視点を取り入れることを重要視している（SOU 2018）。特に受入れ留学生の数を増やすために、入学手続きや授業料の見直しも検討の一つにいられており、高等教育法の改定も視野にいれた国際化政策となっている。

大学の国際化政策は、2020年から2030年の期間に運用される計画である。大学の国際化政策は、スウェーデンの研究教育の競争力と発展を高めること、大学間の国際協力がスウェーデン社会、また国際社会全体の発展や多様性につながることを政策理念となっている。具体的には、以下の8項目を目標として掲げている。本項では、政府調査委員会報告書（SOU: Statens Offentliga Utredningar）をもとに各項目について、確認していこう。

目標1. 機関レベルで大学の国際化を進める

目標2. スウェーデンの大学を、知識の集積場としての魅力を高める

目標3. 国際理解と異文化能力をもつ学位取得者の輩出

目標4. 大学の教職員（博士課程の学生を含む）の国際経験の蓄積と国際ネットワークを形成する

目標5. 戦略的な国際パートナーシップと国際協力を高めるための環境を整える

目標6. グローバルな発展とグローバルな社会変革に貢献する

目標7. 大学のニーズに合わせて国際化を支援する

目標8. 国際化の評価に関する枠組を構築する

目標1. 機関レベルで大学の国際化を進める

スウェーデンの大学が将来的にグローバルな課題に対処するためには、国際化に率先して取り組む必要がある。大学の国際化の優先事項として、教育と研究の質を国際的なレベルにまで高めることを提唱している。教育と研究の両方を高めることで、双方に影響しあって大学間の連携をより強めることを目指している。また、大学運営においても国際的視点を取り入れること、教育研究に英語を使用言語として取り入れることも掲げている。こうした国際化の戦略は、機関だけでなく社会全体にも波及していくことをねらっている。目標1を達成するための必要事項として、以下を挙げている。

—大学の国際化は、すべての教育研究政策の受容事項として捉えられる。

—大学は、国際的な教育研究を実施するための条件と環境を整備する。

- 大学は、社会全体の国際化へ向けて、各大学の教育と研究について見直しや改善を図る。
- 大学の教育研究において英語を使用言語として位置づける。

目標2. スウェーデンの大学を知識の集積場としての魅力を高める

高等教育市場のグローバル化に伴い、大学は国内外において教育研究の魅力的な協力パートナーであることを展開しなければならない。スウェーデンの大学は、教育研究の分野では国際的にも高い評価を得ており、この地位を維持し、より高めるための研究ネットワークを構築することを掲げている。知の集積場としてのスウェーデンの大学の魅力を高めるためには、教育研究の内容を国外の大学へアピールすることだけでなく、スウェーデンでの修学や就労の条件がよいこと、滞在許可を確実に取得することができること、よい生活基準が保証されるということなど、学業や研究生活の面の安定化を視野に入れる。

海外におけるスウェーデンの大学の魅力を高めるために、EU域内とくに北欧諸国における大学との協力関係を重視している。北欧諸国の大学は、国の規模や文化的背景などが比較的似ているということ、またすでに様々な分野で協力関係を進めていることから、北欧諸国間における大学の国際化のロールモデルになることを目指して、大学間の協力関係を重点化することを計画している。この目標を達成するために、以下のことを必要事項として挙げている。

- 外国の学生、教育研究職員、その他の職員を歓迎する。スウェーデンに定住できるように整備し、長期間の交流を維持できるようにする。
- スウェーデンの先進的な部分を強化し、知識国家としてのスウェーデンの地位を高める。
- 政府、政府関連機関、大学は、海外の大学や研究活動をスウェーデンの大学で展開できるように緊密に協力する。
- 留学生に、よい条件の奨学金を提供する。
- 北欧諸国の大学との協力関係を発展させる。北欧の国際的な優位性のある知識領域であることをより高めるために、北欧諸国の大学は協力関係をより緊密にする。

目標3. 国際理解と異文化能力をもつ学位取得者の輩出

社会における国際化、多文化化が加速するなか、大学教育を通じて学生の国際理解と異文化能力を形成することを掲げている。学生が国際的な経験を積めるように、大学内における国際化を展開することと同時に海外の大学への留学制度の整備を進めることを重要視している。大学内の国際化を進めるための教育環境の整備として、通信技術の活用を挙げている。たとえば、インターネットを通じて海外の大学の授業を受けることができるようにすることが例である。このような通信技術の活用によって、実際に海外の大学へ行く機会をもつことができない学生に対しても、国際的な交流をもつため

の機会を提供することを目指している。海外の大学への留学制度の整備として、学士、修士、博士課程でのダブルディグリーやジョイントディグリー制度の構築を挙げている。送出し留学生の少ない分野での学生移動を進めるために、国家レベルで支援する方法を検討する計画である。

- －国際理解と異文化能力の涵養を大学教育の中心におく。
- －大学における通信技術とバーチャルモビリティを発展させるために、財政的、教育的支援を提供する。
- －大学内の国際化を進めるために、大学、政府関係機関とともに戦略的に進める。
- －学生移動を支援できるように国家的に体制を準備する。EU 域内の留学プログラムを増やし、スウェーデン人学生の留学者数を高める。2025年までに少なくとも25%の学生が、3か月間海外に留学できるように支援する。
- －大学は研究費助成団体と協力して、教育研究の国際的パートナーシップを高める。

目標4. 大学の教職員（博士課程の学生を含む）の国際経験の蓄積と国際ネットワークを形成する

大学の教員、職員、学生の国際経験を積むことで、大学の教育研究の発展につなげることを目指す。国際的に活動している研究者は、自身の教育指導に国際的な経験を取り入れることを推奨する。国際的な視点で自身の専門分野に関する知識を深め、様々な文化的背景をもつ学生への対応や教育手法を身に付けることを求めている。大学の国際化を進めるために、職員もまた国際理解と異文化能力を備えることを重視している。また、博士課程の学生が、留学経験を通じて国際的なネットワークを構築し、将来の研究者生活、社会人生活にとって必要な交流の場をもつことを勧めている。

- －EU 域内の留学プログラムや交換留学制度を活用して、教員の留学を組織的に、財政的に支援することを強化する。
- －教職員の物理的、バーチャルな移動を促進する。特に留学者数の少ない分野からの送出しを支援するように、政府関連機関とも協力する。

目標5. 戦略的な国際パートナーシップと国際協力を高めるための環境を整える

長期間の戦略的な国際パートナーシップを様々な国の機関と構築することで、大学の教育研究の質を高めることを掲げている。大学が、海外の大学、企業、組織ネットワークと戦略的なパートナーシップを展開するために、国レベルで財政的、法的な支援をする計画である。多様な機関とのネットワークを構築することは、大学の発展だけでなく、経済成長やグローバルな課題の解決といった社会全体に利益をもたらすと考えている。また、大学の国際協力を促進するために、北欧諸国やEU域内ですでに存在する枠組みを活用して、北欧諸国、EU域内以外にもこの枠組みを展開することを計画している。国際協力の関係を深めることで、新しい知識制度、教育方法、ビジネスモデルなどについて知見

を得る経験にすることを目指している。スウェーデンの大学と海外の大学とのパートナーシップを促進するために、政府による積極的な支援を行う計画である。

- －北欧諸国やヨーロッパとの協力関係をより発展させるとともに、ヨーロッパ以外の国とも協定を広げられるようにする。
- －財政的、法的支援を強化することで、他国との教育研究のパートナーシップ体制を加速させる。特にスウェーデンとの交流があまりなかった国とも積極的に交流をもてるようにする。
- －他大学との協定は、大学教育研究の資金提供者とのコンサルタントを強固にする。
- －環境保護や国際問題の課題に取り組む大学の教育研究や技術開発を強化する。

目標6. グローバルな発展とグローバルな社会変革に貢献する

ローカル、グローバルな面において、大学は教育研究を通じて社会発展にとって重要な役割を担っている。特に国連が提唱する「持続可能な開発のためのアジェンダ 2030」の達成にとって、教育研究の国際協力は深刻なグローバルな課題を解決するために必要不可欠であるとし、大学を重要な位置にしている。スウェーデンの大学は、長期間途上国との協力関係を構築しており、開発問題にも貢献してきた。大学は学問の自由を認める場として、紛争や移住などの理由で自身の修学やキャリアを途中で諦めざるをえなかった境遇にいた学生や教員に対して、教育や労働の場を提供してきた。このような取り組みは、今後も継続して発展させる計画である。

- －大学の国際化は、アジェンダ 2030 を考慮して進める。
- －博士課程の研究の支援を優先することで、協定国の大学におけるキャパシティ・ビルディングを支援する。
- －教育研究の連携を強化することで国際教育協力を進める。
- －大学は、スウェーデンにきた難民などの地位を向上させるための体制を構築する。

目標7. 大学のニーズに合わせて国際化を支援する

大学の国際化は社会全体に利益をもたらす。国際化のための条件整備は、多くの組織、レベルにまたがってすすめられるべきであり、特定の政府関連機関や社会セクターとのつながりをもつことは、大学の国際化のために重要である。これらの機関が協力して国際化を目指してともに同じ方向へ向かって進むことで、様々な障壁や困難にも適切に対処することができる。特に教育研究省は、国際化の促進の際に直面する困難を解決するために、中心的な役割を担う。スウェーデンの大学における教育研究が海外の大学との接点をもてるように、スウェーデン政府は調整を進めていく。スウェーデンの大学は国際的な知名度を高めるために、大学は国内における大学間で国際化に向けて同じ目標を共有しながら協力することが求められる。

- －国際化に向けた課題を認識し、解決するための枠組みを構築する。政府関連機関や組織が、これに対応できるようにする。
- －政府関連機関や組織が一体となって、大学の国際化に向けたセクター間の調整を行う。
- －政府がスウェーデンの教育研究政策を促進し、大学とともに実現していく。

目標 8. 国際化の評価に関する枠組を構築する

大学の国際化の評価について、国際的な枠組を導入する必要がある。高等教育局（UKÄ：Universitetskanslersämbetet）が担当する大学教育の評価や質保証枠組に、国際的な視点を取り入れる。

- －この国際化政策は、より効果的な国際化の戦略を継続的に示すために評価を行い、5年後に改定する。
- －国際的な視点で、様々な研究について独立した評価を実施する。
- －UKÄ や他の国内、国際機関を通じて、国際化を証明する機会を設ける。
- －政府、大学、その他政府関連機関の需要に基づいて、国際化に関する統計を充実させる。
- －二国間協定、デジタル・パートナーシップ、移行プロセスなどの運営に関する評価体制を構築する。

おわりに

スウェーデンの大学における国際化とは、送出し・受入れ留学生数を増加させること、教育研究に国際的視点を取り入れるために教員と学生の国際的な経験を高めること、教育プログラムの英語化、授業料の改革、奨学金制度の見直しなど財政的支援の強化、高等教育法の改定による法的支援を指している。大学の国際化を促進する過程で、大学は政府関連機関、組織と連携して進めなければならない。国際化という同じ目標を掲げて財政的、法的整備を進めることは、社会全体の国際化を意味している。留学制度を通じてスウェーデンで修学／就労する学生や教員が短期的に滞在するのではなく、定住し、スウェーデンで生活をして働くことも含めた長期的な視野で国際化を展開することを掲げている。そのための様々な保障の整備を大学だけで進めることは不可能であるため、政府が様々な関連機関と連携して進めることを目指している。また、大学の国際化を進めるにあたって、大学の競争力を高めることだけでなく、国際社会全体の問題としてアジェンダ 2030 との関連性をもつことで、グローバルな課題に対応するためにも大学の国際化がいかに貢献するのかを強調することで、大学だけでなく他機関も含めて国際化を進めることを提唱している。

スウェーデンの大学における国際化政策に関する課題と展望について考察しよう。課題として、第一に、国際化政策の転換に関する大学間の格差をいかに是正するのか。大学によって留学生の受入れ人数に大きな違いがあることを先述の統計で確認した。政府は大学の国際化に向けて、大学だけでは

なく関連機関全体が共に改革を進めることを掲げている。しかし、実際に学生を海外へ（または海外から）受入れ、送出すのは大学である。政府の掲げる国際化政策に対応するために、大学は教育制度の改定だけでなく、教育環境の整備、大学寮などの住環境の整備にも着手しなければならない。留学生の受入れにこれまでも関わってきた大学であればその方法やノウハウが蓄積されているだろうが、あまり留学生を受け入れてこなかった大学にとっては取り組まなければならないことが多くある。国内の大学全体が国際化を進めるためには、長期的な支援と取り組みが求められるだろう。第二に、受入れ留学生の増加に対する住環境の改善である。スウェーデン人学生でさえ寮が見つからず、学生の居住問題は大きな問題となっている（SFS 2017）。留学生を多く受け入れたいのであれば、教育研究を下支えする生活保障の整備も進められる必要がある。

今後の展望として、大学の国際化に対する取り組みは2020年度から運用されており、実際に運用されてから直面した課題については政府の調査委員会や大学が分析を行い、対処していくことが考えられる。大学の国際化を実現するために、提案されている通りに高等教育法を改定し、授業料や奨学金制度の見直しも進められることが予想される。課題として指摘したように、機関レベルでの国際化について国内の取り組みに差が生じることが考えられるが、国内の先進的な取り組みを事例にしてロールモデルとして中心におき、国際化を全国的に展開することが模索されると考えられる。

本稿では、大学の国際化政策について政策面でどのような提案がなされているのかを考察した。今後の課題として、実際の大学において国際化政策をどのように進めるのかについて考察を深めたい。

【参考文献】

- Knight, J. (2008) *Higher Education in Turmoil - The Changing World of Internationalization*. Sense Publisher.
- Maringe, F. (2010) The Meaning of Globalization and Internationalization in HE: Findings from a World Survey. In Maringe, F. and Foskett, N. *Globalization and Internationalization in Higher Education*. Continuum International Publishing Group, pp. 17- 34.
- SFS(2017) *SFS Bostadsrapport 2017-Bostadssituationen för landets studenter*.
- Sverige Officiella Statistik (2016) *Universitet och högskolor - Internationell studentmobilitet i högskolan 2016/17*.
- Statens Offentliga Utredningar (2018) *En strategisk agenda för internationalisering(SOU 2018:3)*
- 喜多村和之 (1984) 『大学の国際化—外から見た日本の大学—』 玉川大学出版部。
- 江淵一公 (1997) 『大学国際化の研究』 玉川大学出版部。
- スウェーデン統計庁 ホームページ <http://www.scb.se/en/> (2018年4月1日確認)